

派遣先所属 福島県雇用労政課

氏名 横田 直樹

派遣期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

1 派遣業務の内容、現状

派遣先の雇用労政課は、労政担当・雇用担当・助成金班で構成されており、ワークライフバランスの推進や労働相談、就職支援、被災者・避難者等の雇用対策などを行っています。

私が属する助成金班では、震災復興関連の事業『ふくしま産業復興雇用支援助成金』を担当しており、班内は福島県職員が2名と派遣職員3名（埼玉、栃木、東京）と事業所調査に係る専門員5名の10名が籍を置いています。

このふくしま産業復興雇用支援助成金は、被災地域の安定的な雇用を創出し、地域の中核となる産業や経済の活性化に資することを目的に、県指定の産業政策と一体となって雇用面から支援をするものです。

具体的には、グループ補助金などの国や県の実施する補助・融資等を受けた企業が被災による失業者を雇用した場合に、その雇用の実績に基づき企業に対して助成金を支給しています。また、昨年度より、既に助成金の支給を終えた企業へ出向き、申請当時の状況、また、現在の経営状況や雇用実績などを聞き取り、助成金の効果について調査も行っています。

現地調査で企業の方からお話を色々聞かせていただくと、震災や原子力災害等により、生まれ育った土地からの移転を余儀なくされてしまった話や同じ地域で廃業する同業他社の従業員を受け入れて雇用した話、流通の停滞や風評被害で商品の売上げが落ち、雇用の維持に苦勞をした話など内容は様々ですが、『当時はこの助成金があつて本当に助かった』といった言葉を聞くと、当時の申請には携わっておりませんが、自分が今行っている仕事の意義が見えたような気がします。

震災から8年が経ち、この助成金も本来の定義から少し変わり、被災による失業者の雇用というより、流出（避難）してしまった労働力を確保することという面が強くなっています。当初の復興創生期間が令和2年度までであることと合わせ、この助成金制度も震災から9年後の福島の実情に合わせた制度へ変わる必要があると感じます。

2 被災地の復旧・復興の状況

普段の福島市内の生活では、震災の影響を感じることは、ほとんどありません。そう言えるくらいに、埼玉にいた時と同じような暮らしができます。しかし、そうではない地域もあります。未だ、富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・南相馬市では帰還困難区域の地域があり、放射能の影響により、限定的に道を封鎖されたその環境は、初めて通過するとき、原子力災害の恐ろしさの一端を目の当たりにした気がしました。これは、除染が終え、避難

指示が解除された地域でも感じたことで、避難により住民がいなくなったしまった町は、町の体はなしていても、寂しく、町ではなくなってしまったように感じました。戻ってくる住民も年々増えてきてはいるようですが、復興庁の住民帰還意向調査によると、戻らないと決めている住民の割合が半数を超える町村もあるようです。

また、助成金の現地調査で企業のお話を聞いてみても、人手不足という言葉をよく耳にします。これはもちろん、福島県だけの話ではありませんが、震災後に落ち込んだ業績も回復しつつあるが、仕事があっても人員が足りず、業績を伸ばすことができない。あるいは、業績も悪くないが、役員も含め、従業員が50代以上でこの先事業を継続することができないといったお話もよく伺います。人が避難し戻らないことで、労働人口の減少が進んだというのは、福島県は特に顕著であると感じます。

復旧・復興は進んでいると思います。道路や新たな施設などインフラはどんどん整備されてはいますが、なにより人を福島県に呼び込むことが、今後の復興に向けての課題であると感じています。

3 被災地派遣となって感じたこと

そもそも私が福島県に派遣を希望した理由としては、登山が好きで、百名山である安達太良山などを登るために何度か訪れていたこと、また、以前被災地派遣で訪れていた友人に誘われ福島県で遊び、食し、その魅力を感じていたことがあります。そして、福島県で働くことができることを楽しみにし、また、福島県の方々のために何かできることをと考えておりました。

実際に訪れてみてですが、福島県の方は温かく、また、人の強さを感じます。

福島県職員の方は、右も左もわからない派遣職員の私にひとつひとつ丁寧に業務のことを教えてくださり、また、現在現地調査で県内全域に出向いておりますが、その都度、地元の名物料理等について話を聞け、地物の魚介・喜多方や白河といったラーメンの聖地・南郷トマトのような特産品を楽しむこともできています。

そして、人の強さという点ですが、一度震災を経験していることからだと感じています。今年度は、台風19号により災害もありました。その際の、福島県職員の対応や、なによりも現地調査で訪れる企業の方からも感じました。とある企業でお話させていただいた方で特に印象に残るものがありました。台風被害の状況について伺うと、『被災し、業務が停滞している状況にあります。でも、震災を乗り越えてきていますから。もう一度頑張りましょう。』この言葉は忘れられません。そして、派遣された意義を再確認できたように感じます。

福島に住んで、1年はまだ経っておりませんが、本当に良いところだと感じております。私が派遣され、それをきっかけに福島を訪れてくれた友人は10人ほどいます。みなさん福島を味わい、楽しんでいってもらえました。また、福島の魅力を知ってもらう機会をつくらうと考えています。

この報告書をご覧になっているみなさまも1度訪れてみてはいかがでしょうか。訪れた

ことのある方は何度でもいらしてください。震災被害・津波被害・原発事故といったイメージを持たれている方、たくさんいらっしゃるかとは思いますが、放射能汚染への対策は進んでいますし、決してそのイメージばかりではありません。

福島を味わい、楽しみ、知ってみてください。それが、きっと今後の福島の復興につながると思います。



鶴ヶ城（会津若松）

雪の鶴ヶ城は綺麗でした。
歴史好きな方は一度是非。



喜多方ラーメン（喜多方）

朝ラーで有名。あっさりしたスープで朝からでも美味しいです。
有名店は混みますが、市内には他にもたくさん店舗があります。



海鮮定食（いわき）

いわき市はアクアマリン（水族館）やハワイアンズなどがあります。
魚介はもちろんですが、デカ盛りのお店が多いことでも有名です。



ソースカツ丼（会津若松）

市内にはたくさんのソースカツ丼屋があります。デカ盛りですが、パックもあるので、少食の方も大丈夫です。



大内宿（南会津南郷）

旧宿場町。
2月には雪まつりも行われます。



ねぎそば（南会津南郷）

ねぎで食べる蕎麦を一度味わってみてください。美味しいですが、ちょっと苦戦します。
会津地域は蕎麦で有名です。